



冬季オリンピックを見て

熊本大学 消化器外科
馬場 秀夫

4年に1度のオリンピックであるバンクーバーオリンピックが閉幕した。オリンピックという世界最高峰のスポーツの祭典を見て感じたことを記してみたい。

今回のオリンピックではメダル獲得が期待された選手は多かった。その中の1人が女子モーグルの上村愛子選手である。長野オリンピックに高校生でデビューし7位入賞を果たし、それ以降毎回オリンピックでは注目されてきた選手である。今回のオリンピックを含め連続4回の出場、そして結果はその都度、7位、6位、5位、4位と一位ずつ上位の成績を残した。立派である。特に30歳で挑戦した今回は、昨年の世界選手権で優勝してただけに、本人はもとより、周囲の関係者、国民皆がメダルを期待した。これまでの十分な練習と海外遠征を含めた豊富な経験、結婚して迎えることによる精神的安定、何よりも昨年世界一になった実績と自信、すべてが今回メダルを取るのに最も近いオリンピックであったはずである。しかし、結果は4位。確かに前回大会から一位だけ上位の成績を残したが、悔いが残るのは本人だけではなからう。その心情を物語るのが、試合後のインタビューで

流した涙である。あの涙は何を表しているのか？

4回挑戦してもメダルを獲得できなかった悔しさと、次まで続けられるかどうかの不安な気持ちの表れではなかったか？ これからの更なる4年間をこれまで以上の練習に日々明けくれたとしても、メダルを取れるという確かな保証はないのである。選手としてオリンピックを目指すのは、本当に過酷である。オリンピックを目指す4年間は、すべてのことを犠牲にし、勝つための練習と国内、国際試合への出場のための時間にそれを充てる。テレビ観戦している一般人が経験するような自由な時間の使い方は、まず出来ない。年頃の女性であれば、旅行に、ショッピング、映画に、音楽鑑賞、恋愛など、人生の中でも大事な時間の過ごし方があるはずであるが、オリンピックを目指すということは、自分に与えられたすべての時間を、勝つために必要な練習、精神鍛錬、試合に充てるということである。4大会連続となるとその間の時間と努力は膨大なものである。加えて、選手として活動を続けるための資金稼ぎも必要である。

今回、仮に上村選手が銅メダルを手にしていたら、笑顔でイン

タビューに応じられていたであろうか？ 否、やはり涙を流したであろう。競技者とは、常に上を目指すものである。銅メダルが取れたとしても、上には銀も、金もある。心から満足して笑顔で応えられる心境になるのは、やはり金メダルを手中にした時であろう。世界の頂点を目指して頑張り続ける選手の気持ちはそのようなものと思う。

そのような心情を端的に示したのは、浅田真央選手の試合後のインタビュー時に見せた涙であったろう。4年前の前回大会は年齢が条件に満たず参加できなかった。この4年間に世界選手権で優勝したり、実力NO.1に上り詰めた。しかし、その後同じ年齢の韓国のキム・ヨナ選手に追いつかれ、追い越されしつつ、常にライバル同士の激しい戦いを繰り広げてきた。特に昨年からはキム・ヨナ選手が世界の頂点に立つ演技を試合の度毎に見せてきた。キム・ヨナ選手のそのような成長はライバルとしての浅田選手の存在が極めて大きかったと思われる。そのような状況の中で迎えた今回のオリンピックでは、どちらが金メダルを取るか、世界中から注目された。浅田選手がオリンピック本番で見せた演技

は、誰が見ても自分の持てるすべての力を十分出し切ったの素晴らしい演技であった。特に想像できないほどのプレッシャーの中で、トリプルアクセルを3回とも成功させるという、人間業を超える演技を披露した。その精神力と、これまでの努力の結晶である世界一流の実力を遺憾なく発揮した素晴らしい演技に、誰もが感動し、酔いしれた。しかし、結果はキム・ヨナ選手が一步上回って金

メダル、浅田選手は銀メダルに終わった。そのような状況での浅田選手の涙には、実力をすべて出し切った満足感とともに、やはり世界の頂点に立ち金メダルを取りたかったという悔しさが溢れていたように思う。

選手としてその成績に満足する瞬間、それはそれ以上の成長を止めるブレーキにはなっても、さらに上を目指すためのアクセルにはならない。受け止め方の個人差はあるとしても、

まだまだ上を、と考えるからこそ、選手生活を続け、さらに過酷な練習に挑み続け、成長するのである。

テレビ観戦する一般人には単なる悔し涙に見えても、選手の心の中は計り知れないほど複雑である。勝てば褒められ、負ければ野次られ、選手は孤独である。勝つためにどれだけの努力をしたかを十分に評価する視点を持つことも大事であると思う。



プロトンポンプインヒビター 薬価基準：収載

処方せん医薬品[※] 注）注意—医師等の処方せんにより使用すること



タケプロン® カプセル15・30
OD錠15・30
静注用30mg

(ランソプラゾールカプセル&口腔内崩壊錠、注射用ランソプラゾール)

効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については「添付文書」をご参照ください。

〔資料請求先〕



武田薬品工業株式会社

〒540-8645 大阪市中央区道修町四丁目1番1号
<http://www.takeda.co.jp/>

(0905)